

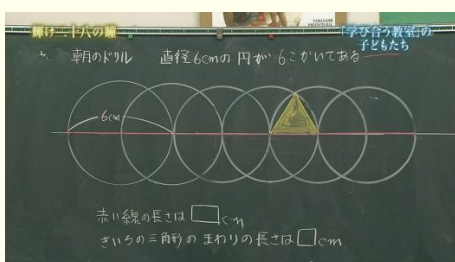
# 第4回 研究会より

参加者 7人

天気が心配されましたが、空も明るくなり無事開催することができました。遠くから阿部元校長先生も参加していただき、ありがとうございました。

## 1 ETV 特集を視聴しての意見交換

今回は、先に ETV で放送されました、『ETV 特集 輝け二十八の瞳』のダイジェストを 20 分ぐらい視聴して、参加者から感想発表と意見交換をいたしました。



## 参加者からの意見交換

- ・教えあいと学びあいが違うという点が印象に残った。話し合うよりも聞きあうことが学びの起点となるように仕向きたい。
- ・教えあいと学びあいは取えてあいまいなままでもよいのではないだろうか？
- ・わからないといえるようにするには、いくつかの壁があることがわかる。このビデオでは母と担任とのやりとり、担任の粘り強さがうかがえた。
- ・わからない子のつらさは予想以上に大きい。従来の教える授業の中で、どんなにわからない子が傷ついているのか、再確認したいし、決してそういう子を作ってはいけない。

・佐藤学先生もよく言っているが、依存できるからこそ自立ができるとう考えを大切にしたい。

・円の定義に2時間をかけている。教師の力量があるからこそであろう。普通ではなかなかできない。応用に時間をかけてしまっているが、長い目で見れば、このほうがしっかり習得するだろう。

・「わからない」とただ言わせるのではなく、自分はどこまでわかっていて、どこの点かわからないかを言えるようにすることも大切だろう。特に中学生では、ただの答え探しになってしまう。いわゆる“戻れる場所”を自分でも認識していることが必要だし、授業者もそういう点にこだわりを持つことが必要ではないか。

・「わからない」と言える学級づくりが、学級経営の基本となっている。

その他にも、実際に少数の計算をしていたときの事例や、わからない子が、周囲の子ども達から冷たい対応を受けた事例などを紹介していただいた。

「わからない」と言わせることは、意外に教師が思う以上に難しいし、わからない子にとっては、大きなハードルであることを参観者一同で確認しあった。

※尚、ETV 特集の番組を山本さんが、文字に起こしてくれました。今回はその資料も配布させていただきました。誠にありがとうございます。

## 2 授業カンファレンス

高橋晋さんの中学3年 道徳『国際理解（多文化社会に生きるには）』の授業。今回の授業では、6枚のカードを生徒達に配り（グループ毎）、そのカードの選別を通して考えていく授業であった。そのため、参観者にも同様のカードを配って、ある程度、生徒達の活動を理解してもらった後に、授業ビデオを視聴し、研究協議会を行った。

※尚、この教材として利用したのは、開発教育協会が無償で配布している『レヌカの学び』という教材を、高橋流にアレンジして行ったものである。

教材は、以下のアドレスからダウンロードできます。

[http://www.dear.or.jp/book/book01\\_renuka.html](http://www.dear.or.jp/book/book01_renuka.html)

### 【授業起こし】

T：じゃあ今日は、この時間考えてもらいたいことは、世の中いろんな人がいるんだけど、そのいろんな人とうまくやるにはどうしたらいいかということ、ちょっとテーマに考

えたいと思います。それで何もないところで考えてもしょうがないので、ある実際にいた人の話をします。

名前はレヌカという人です。いい、こっち見てよ。この方はネパールの人です。ネパールから日本にやってきて、しばらく日本で生活していたら、なんかネパールの時にいた自分の考え方と日本にいた時の自分の考え方と、だんだん変わってきた、そういうことを言ったので、その人の体験をちょっとみんなで考えてみたいと思います。

じゃあまず、ネパールというのはどこか、というと（電子黒板で説明開始）。わかるかな、この赤いところ（地図に指をさしながら）がネパールになります。ヒマラヤ山系のふもとというところで、山岳地帯です。ま、こんな風景としては、こんな風になりますね。（電子黒板にネパールの都市の様子の写真）これ教科書からとったんだけど、みんなの教科書に載っている？英語？

S：載ってない

T：違う教科書か。校長先生から借りたもの。3年生の。ま、子どもたちはこんな状況で生活しているというイメージを作ってください。それで、今からですね。

S：先生、カーテン閉めていいですか？

T：お願いします。

電子黒板の写真が窓際の生徒には見えにくいようだ。授業者は電子黒板を動かしながらの説明だが、反射して見えにくいということに気づいていない。電子黒板の使用について、配慮しなくてはいけない点である。

しばらく、カーテン閉めのため待つ

T：えーちょっとグループに分かれて、6枚のカードがありますので、6枚のカードを、これはレヌカがネパールにいたときの考え方のカードだ、もしくは日本に滞在して、日本で生活していた時のレヌカさんの考え方のカードだというのを分けてもらいたいのです。そしてその時に、自分達で根拠を付けて、これはこういう理由でこっちだと思う、そんなグループの中でディスカッションしながら分けてほしいと思います。

それではちょっとグループになってください。

S：もたもたしている。

T：生活班って決まってないの？

S：うん

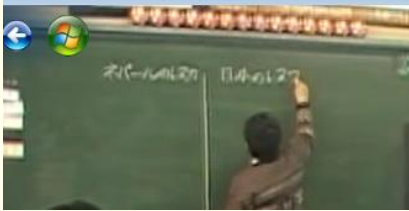
T：んじゃあ、決めようか。

S：お願いします

席替えをしたばかりで、生活班が決まっていなかった。そのため、授業者がその場で4人グループを決めていった。その際、男女の割合を配慮しながら決めていっている。

即席のグルーピングを行った後、6枚のカードが入っている封筒を配布。

黒板に“ネパールのレヌカ”“日本のレヌカ”と板書する。



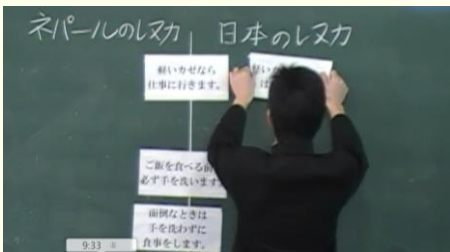
グループごとカードの選別が始まっている。



授業者はグループを回りながら、「どうして？根拠言って？」などの言葉を投げかけている。その後、あるグループの一人に、黒板のカードを使って、どんな結論を導いたか尋ねている。他のグループはそのまま活動を続行している。

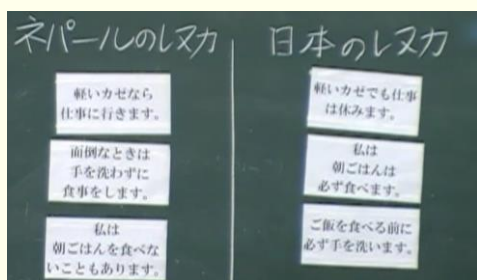
T：Kくん黒板でカードを分けて。

K：黒板に行く前にグループの仕分けしたカードをみつめて、黒板に出た。



T：よし、じゃあグループ解散しましょう。元に戻って。

Kが、黒板の上のカードの仕分けを終了した。



T: Kくんと考え方同じ?違うっていう人?

Aが挙手。

T: はい、Aさん。どこ違うの。

A: わたしたちは、全部逆。

T: 全部逆?

A: はい。

T: おー。それはどうしてだろうね。ここでちょっと議論をしてみよう。

T: じゃあちょっとひとついこうか。これ。「軽いカゼなら仕事に行きます。」「軽いカゼでも仕事は休みます。」ちょっとした違いですけど。これ日本だっと思うこと、じゃあK0くん、自分の考えを言ってごらん。

K0: 日本だったら仕事をしていると思うんで、軽いカゼなら仕事をしていると思います。

T: だから君は、これが日本のレヌカさん。SHさん、どう思う?



SH: 日本は休みをして治すみたいなどころあるけど、ネパールは貧しい国みたいなイメージがあるから、軽いカゼでも仕事に行かないと・・・だからそっちにしました。

隣のAがうなずきながら聞いている。

T: さあ、どう思う?NHさんどう思う?

NH: 日本人と比べて仕事を大切にしているから、推測なんですけど、ネパールの方はカゼをひいたら周りの人にはうつしちゃいけない思っている・・・

T: だから、ちょっとしたカゼでも休むんじゃないか。周りの人にうつすのは困るという考え方があるみたいだけど、SYくん。

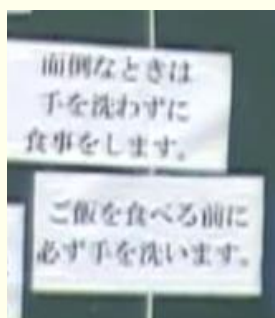
SY: 僕も同じで、ネパールの方は清潔みたくないものがあるから、日本の人はちょっとカゼひいたぐらいでは・・・ネパールの方は清潔・・・

T: さて、議論は、軽いカゼなら仕事にいきますが日本で、仕事を休むのはネパールじゃな

いかという意見が多いのだけど、Kくんはそれで自分の考えを変えられるか？納得？

K：今聞いてて、カゼをうつしちゃいけないというのが出ていて、日本は医療機関が発達していて、少々のカゼならうつってもすぐ病院にいった薬をもらえるけど、ネパールの方はそうはいかないのかなと思ったら、やっぱりカゼをまんえんさせるくらいなら、一人休んだ方がいいのかなという考え方だと思いました。

T：それでは、このクラスでは、軽いカゼなら仕事に行きますが日本で、軽いカゼでも仕事を休みますはネパールということできましょう。じゃあ次。これ一番悩んでいたみたいなんですけど。手を洗うか、手を洗わないかということ。



T：Mくんどうですか？

M：僕たちは、ネパールの方が、手を洗わずに食事するで、日本のレヌカさんは、手を洗う方だけど、なぜかという、ネパールというのは予想的には水があまり豊富でないことを、んと僕的に考えると、そんな毎日手を洗っていたらんと貴重な水がどんどん減ってしまうから、多分日本はきれいな水があるから手を洗って食べるけど、だから日本は手を洗って食べる。



NHもMもそうだが、“私たちは、僕たちは”という話し出しの発言になっている。当然グループで話し合ったため、グループでの答えが効いている。個人の考え方に向かっていくかどうかは、この後の話し合い次第か。それとも、一言、グループの考えと違ってもいいので、自分の考えを言ってみてと授業者が問いかけるか。

T：反論？反論はこのグループしかない。KAさん。

KA：私たちのグループは、日本が手を洗うで・・・

T：あなたの方は、日本がこっちで（黒板のカードを移動させながら）、ネパールはこっち。

どうして？

KA：んと、グループ内で話し合った時に、ごはん食べる時には手を洗うけど、家に帰ってきたときには手を洗うけど、いちいちご飯の前に手を洗うかな？という話しになって、多分洗わないんじゃないかと・・・

T：なるほど、なるほど。はい、反論

T：今2つに分かれているけど・・・Eさんの考えは？

E：んと、手を洗わないのがネパールだと思っていたんだけど、KAちゃんのを聞いて、日本のレヌカさんが手を洗わないかなと・・・

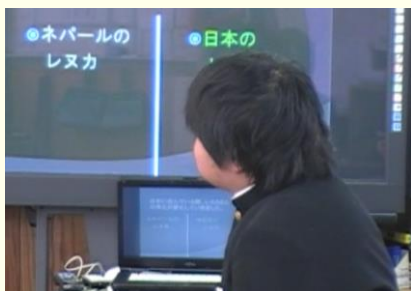
T：KAさんのどこで変えようと思ったの？

E：なんか、日本人ってなんか、必ず手を洗うっていうの、なんか無いと思うから、面倒な時は手を洗ってない・・・生活しているから

T：Yくんはどっちだと思う。

Y：・・・・・・・・

T：手を洗うのは、日本か？ネパールか？



Y：・・・・・・・・

T：いいよ、自分の考えでいいよ。

Y：ネパールが手を洗う・・・

T：ネパールの方が手を洗うということ。どうして？

Y：細菌とか、作業してて菌とかついてて、外国の方だといろいろ危ない菌が出回っていると思うから、手洗うんじゃないかなーと思う。

T：さて、Mくんどう思う？今の考えを聞いてみて

M：はい。日本というのは、あの一（周囲が笑）、日本というのは、レストランとか和食店にいったときでも、手を洗わなくても、必ずお手ふきとか、必ずふいたり、きれいにするもの出てくるんですよ。だから、ネパールで多分、泥とかついたらそのまま食べたりするのかなあと

周囲：えー

T：今のMくんの意見はどう思いますか。Rさんどう思いますか？

R：んと、確かに、お手ふきとかあるとは思いますが、ご飯の前にこうやって手を拭いては食べない、家では。だから面倒な時はというときだから、外で食べる時はやるけど、家ではしない。

T: 家ではしない。TA くんどう？

TA: 俺は、みなさんが言っていた通り、家の中ではほとんど手をふいていないし・・・

T: さて、M くん、今までの流れから、これが（手を洗わない）日本で、これが（手を洗う）ネパールだっているのが多くの意見なんだけど、M くんはちょっと違う

M: 違う

T: まだ違う。なるほど。M くんを説得できるっていう人。

後の協議会でも話題になったが、1 対多という状況で今 M がいる。M を説得しようという  
問いだったが、多の方を納得させようと M に問いかけることもあったのかもしれない。  
議論好きの M だからこそ、どちらでもできそう。

T: はい、R さんどうぞ

R: はい、あの、M くんがあんまり水がないからもったいないって言っていたけど、写真で  
山みたいのがあったから、水があるんじゃないかなと思うから・・・

T: はい、M くん、これで納得できる。

M: まあ、それで納得します。

T: はい、じゃあ最後。わたしは朝ごはんを必ず食べます。朝ごはんを食べないこともあり  
ます。さあ、どっちが日本で、どっちがネパールだという風に判断しますか？TK くん。

TK: 僕らのグループは、上の食べないことがあるのは日本で、必ず食べるのがネパールだと思  
います

T: 根拠は？

TK: 僕の偏見かもしれないけど、僕も朝ごはん食べないこともあるし、もしそうなったとし  
ても日本には、カロリーメイトとかウイダーとかあるんで、朝ごはんの時間が無い忙しいサ  
ラリーマンの人方でも、カロリーを摂取することができるけど、ネパールにはカロリーメイ  
トもウイダーも無いと思うし、Y くんがさっき言ったんだけど、医療機関がまだちゃんとし  
ていないかもしれないんで朝ごはん食べない人、病気しやすい、体の栄養が崩れやすいと思  
う・・・

T: なるほどね、カロリーをつけないといけないということね。はい、今の TK くんの考えに  
反論がある人は？みんな同じですか？

M: はいはい

T: はい

M: 逆なんですけど、んとネパールっていうのは、あ、まず日本から、日本は朝ごはん食  
べる方なんですけど、なぜレヌカさんがきて、なぜ日本で朝ごはんを食べるようになったか  
っていうと、んと、日本の豊富な労働力が要求されるから、朝ごはん食べないことで会社  
に行ったら即ズラですよ。だから日本にきたら必ず朝ごはんを食べよってなったわけですよ。  
だからレヌカさんは食べる方に考えが変わったんだと思う。



カロリー⇒医療機関⇒労働力とよく、考えがつながっているし、他者の考えに寄り添っている。中学3年くらいになると、少ない情報でも、これまでの学習や経験値を利用して、なんとか答えようとする姿勢が見られるようになってくる。

T: 日本の労働力を考えると食べないとやっていけない。

KA: えー

T: さあどう思いますか？

Kが挙手

T: はい、Kくん

K: んと、同じなんですけど。

T: 同じ

K: はい、これレヌカさんが日本にきたから毎日食べるって話で、向こうでもともと朝ごはんを毎日食べられなかったということがあって、日本にきて毎朝食べられるから、食べられるものは食べておこうみたいな、あるのかな、そういうの。

T: なるほど、日本に来てご飯いっぱい食べれるから、今は日本にいたときは食べようと思って食べていた。

さあどう思いますか？はい、KAさん。

KA: 日本は働く時間が他より多かったりするから、朝ごはんを食べる時間が無いってことで食べない人が多いと思います。私もたまに食べない時あるし、他の人も食べてこないって人がたまにいるから、必ず食べるのがネパールで食べないのが日本だと思う。

T: なるほど。じゃあ今、KAさんがいったのが・・・ネパールって何食かわかる？

一部の生徒: 2食

T: そう、ネパールは朝と夕方の2食です。さあそこから考えたらどうだ？

周辺の生徒達がいろいろつぶやく

T: さあKくん、その情報を得たらどうだ？

K: 朝と夜だけなら、朝飯食わなければ昼過ぎで倒れちゃいます。そんで食べるんじゃないかなあと思います。

T: はいMくんは、1日2食って情報を得たらどう？それでも変わらないか。どう？

M: 必ず食べる・・・必ず・・・いる人は自分の限界を極限を極めるために食べずに・・・必ず食べるって

T: 必ずって言葉にひっかかる

M: K先生も（養護教諭）いうけど、朝ごはんは必ず食べてこいって言うじゃないですか、もう日本は、朝ごはんを必ず食べてこいって言われるんです。だからこのまま。

すかさずRが何かつぶやく。

T: え、何？Rさん。

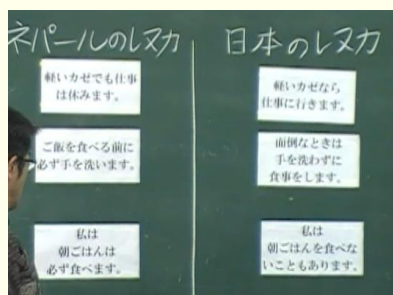
R：えーと、朝ごはん食べてこいとかコマーシャルとかでも、朝ごはんを食べようみたいになってあるんだけど、そういうのあるっていうことは、食べていない人がいるっていうことだと思うから、食べてこないんじゃないかなと思う。

T：面白い。そういうスローガンを掲げるっていうことは、朝ごはんを食べていない人がいるからじゃないのっていうことなんだけど、Mくんどう思う？

M：じゃあそれで。

(笑)

T：よし、今日はそこが本題ではないんだけど、えーと実は、レヌカさんが答えたのはこうです。この通り。この通り。



T：それで、そのひとつひとつをね、考えるんじゃないで、今日みんなに考えてほしいのは、なぜ、レヌカさんは考え方を変えたんだということなんだ。考え方や習慣がなぜ、ネパールにいたときこんな風だったのが、なぜ日本で生活してこういう風に、考え方を変えたんだ、そこをちょっと考えてほしいんですけど。

よし、Mくんから

中心発問のひとつ、『どうして、レヌカは考えや習慣を変えたのか？』を発問している。これまでの活動によって、十分にネパールと日本の文化の違いを味わった後の発問を、授業者は意識している。

M：やはり、簡単な話、文化の違いで日本の文化に適応とか、合わせたから・・・

T：どうして、日本の文化に合わせようと思ったの？

M：んとー、日本に来てネパールの文化のままだと、必ず仕事休んだりしても、日本で生きていけないから、日本で生きていくために変化した。

T：生きていくためには考え方を変化していかないといけないんだ。さあ、どう思う。SHさん。なぜレヌカさんは考え方を変えたんだ。

SH：やっぱり日本に来て働いたりしていると、軽いカゼでも休めたりとか、外国の人だからカゼなんかで休んでいると仕事ももらえなくなるから、日本の文化とか習慣に合わせていけないと働けないから・・・

T：なるほど、KYくん。

KY：・・・生活リズムとか違うので、ネパールのままだと日本で過ごしていくのが厳しいので、ネパールの・・・になることで日本に慣れたい。

T：日本に慣れること。日本に慣れたい？

KY：慣れたい

T：慣れたいんだ。SY くん。

SY：んと、日本人は、レヌカさんは多分来てすぐ日本人のこういう生活にびっくりしたと思うから、あの一レヌカさんも日本に来て、こういう生活しないとおいでけぼりみたいになるからそういう習慣を捨てて・・・

T：んー、おいでけぼりになるから、さあ、みんなは、逆に、みんなも外国に行くと考え方変わるの？どう思う？みんなは外国に行ったら考え方変わる？A さんはどうですか？

A：わたしは、外国に行ったら、・・・日本にいるレヌカさんの考え方を持っているんですけど、ネパールに行ったら、ネパールのときのレヌカさんの考えに変わると思います。

T：どうして？

A：んとー、1日2食とかって、今までずっと3食で生活してきたのに、いきなり2食に変わってしまったら、あの多分増やすこともできないだろうし、きちんとした朝も食べないと1日もたないから、きちんと食べると思うし、あと、医療も発達していないとかあったんで、ちゃんと手を洗わないと病気にかかったり、それで仕事やすんで職場の人に迷惑かかっちゃったりすると悪いからネパールのレヌカさんのような考え方のようになると思いました。

T：だからA さんは外国にいくと今の考え方と変わる。

A：はい（大きくうなづく）

T：変わらないっていう人。・・・ゼロ。

M が挙手

T：はいM くん

M：俺は、JAPAN の文化を外国に、自分の生き方をそのまま外国に行っても貫きたいと思います。

T：なぜ？

周囲の生徒：かっこいい。

M：それはやっぱ、ネパ、ネパールに行くとしても、んとー、ネパールに行ったからって、ネパールの文化に合わせることは必ずないし。それは日本は日本の文化で、んとーこれは日本の文化なんだってあっちもびっくりしたりと思うから、多分俺は否定されても貫く。

T：否定されても、自分の日本の文化を絶対曲げない

KA が話をはじめ

T：はいKA さんどうぞ

KA：ネパールだと、んーそういう風に周りに迷惑をかけるといけないという発展途上国と先進国と違いがあると思うんですよ。でー、文化も違うだろうし、たとえばその、ネパールだったら医療面も違うだろうし、だから日本の文化の・・・とこっちはいけないだろうし、こっちはネパールの文化のまま日本に行けば日本では生きていけないだろうし

T: 日本で生きていくためには、絶対変えなくちゃいけないのか

KA: うん

T: 生きていくためには変えなくちゃいけないんだ。さあどう思う。

Kが挙手

T: はい。

K: 変えなくちゃいけないっていう義務的なものじゃなくて、変えなくてもいいんだけど、変わった方が適応されているっていうか、その考え方が一番その文化にあってて、それが一番楽な過ごし方になるのかなあって思ったときに、やっぱり楽な方がいいんで、変わろうと思う人は多数なんじゃないかなと

T: なるほど、変えた方が楽に生きていける、Mの生き方は楽じゃない

K: ある意味すごくつらくなると思う

T: ある意味すごくつらくなると思う。M どう思おう？

M: 俺的には、山あり谷ありです

T: 人生？

M: 多分、KAくん言った通り、なんかネパール行って日本の文化のままだと、やっぱ過ごしづらいつらいとか、あると思うんですけど、多分日本には日本のいいところあるし、ご飯食う時、箸で食べるとか、「いただきます」言うとか、それは外国に伝わってほしい部分もあるから、やっぱなんかこのまま日本の文化でいてもいいじゃないかと思います。

T: 敢えて山あり谷ありのそういう生活を俺は選ぶんだ。さあ、Eさんどう思いますか。

E: んと、文化の面で外国に伝わってもいいという面もあると思うけど、ここに出てるみたいなことを（黒板を指さし）、いつも外国ではできないんじゃないかなと思うから、・・・自分の住んでいた文化を違う国でやるというのはできない

T: あ、そうか、じゃあEさんは、内容によってできるものもあるし、できないものもあるという考え方なんだ。

Eがうなづく

T: で、ここらへん（黒板に貼っているカードの内容）のやつはなかなか日本の文化を貫くのは難しんじゃないかというのがEさんの考えだ。SHさん。

SH: んと、自分がネパールに行ったら、すぐには変わらないだろうけど、生きていくためにはそのところに合わせなくてはいけないときもあるし、ネパールは2食で、日本は3食食べるけど、それで朝ごはん抜いたら、ネパールでは体力なくて仕事できないし、軽いカゼで仕事行く文化だとして、でもそれでもネパールで軽いカゼだから仕事に行ったら、仕事場の人にうつっちゃかもしれないし、「なんで来るの」みたいな感じでみられるかもしれないから、日本の文化のままは難しいから、ネパールの文化に合わせるのが自分のためにいいと思います。

T: 自分のためにネパールの文化に合わせるのがいいんだ。MSさんはどう思う？

MS: . . . . .

T: あなたは考え方は変わる?

MS: 変わると思います。

T: どうして?

MS: . . . . 過ごしやすい . . .

T: うん、過ごしやすいように生活していきたいということ。はい、今までの議論を通して、Aさんはどう思う?

A: . . . . 言ったように、ネパールに行って日本の文化を貫きとおせる部分と、できない部分があるので、日本の独自の文化を、その保てる部分はきっと外国に行っても変化しないと思うけど、やっぱり変えなくちゃならない部分は変えないと、自分も楽じゃないので、そういう部分では変化させると思います。

T: 変化させる部分と、変化させない部分があるっていう風に今なってる。じゃあ、みんなさ、絶対これは変化させないっていうのは、一つ紹介してもらおうか。ネパールに行っても、絶対私はこれは変化させないっていうの、考え方もしくわ習慣? なんでもいいよ。誰かいる。これは絶対、宇宙に行こうが、これは絶対変化させないっていう

KA: この3つの中から (黒板の3つのカードのこと)

T: ううん、待ってな、はい、TAくん

TA: あいさつ

T: あいさつ、おはよう。あいさつは絶対に変えない。あいさつ、ありがとうはどこに行っても絶対に変えない。KOくん

KO: お風呂に入りたいです。



T: お風呂に入るっていう習慣はどこに行っても絶対に変えない。

しばし盛り上がる

T: お風呂に入るのは絶対変えない。お風呂に入るっていう習慣がない国でも絶対入る。

KO: 自分で作っても (ジェスチャー交えて)



T: 自分で作っても。はいMは? 絶対変えないこととは?

M：絶対変えない？髪型とか。

(笑)

T：なぜ？

M：いや、なんかアフロの国に行って

(笑)

T：アフロの国に行って、アフロにならない

T：はい、NHさん。

NH：んー、寝る時間。

T：寝る時間。

NH：何時間寝ているか

R：睡眠時間

NH：睡眠時間

T：睡眠時間。今何時間？

NH：指を折って数えながら、1・2・3・4・5・6　7時間



T：7時間。どこの国に行っても7時間は絶対寝るんだ。

NH：7時間か6時間。

T：その睡眠時間は、絶対自分を変えないって、どうして？

NH：寝ないと、朝ごはん食べれないし、眠くなっちゃうとまずいと思うので、3時間とかだ  
って言われたら絶対無理。

T：なるほどなあ。はい、SYくん。

SY：服を着る。

T：服を着る、どうして

SY：あの一あいさつはその国に行ってもできるし、風呂はまあ、入れなかったら入れなかつ  
たでしょうがないし、とりあえず服は着たい。寒い時も、暑いときも、調整して・・・

T：Yくんは

Y：性格？

T：性格は変えたくない

Y：あっちいって凶暴的な性格になって、日本に戻ってきて友達と散歩出て、突然草むらか  
ら動物出てきたら、ワーみたいな、これうまいぞみたいな・・・

T：そういう風な残虐な気持ちはもちたくない。はい、TAくん。

TA: んー、どうしよう。箸で食う

T: 箸で食うということを捨てたくない。どうして?

TA: え、どうして、・・・あのなんか、どこだっけアフリカとかの手で食べるというところが、洗うんだらうけど、ま、日本の文化大切にしたいし・・・

T: 原住民から手で食った方がおいしんだよって言われたら

TA: ・・・

T: KA くん、あなたが絶対変えないものは?

KA: 食文化です。

T: 食文化。どうして?

KA: やっぱ腹いっぱい食いたいです。・・・

T: でも今まで食ったこともないおいしいものを教えてもらえるかもしれないだよ。

KA: それを教わったらそれを取り入れる。

T: あ、自分で取り入れる。

T: さあ、今日ずっと話してきたけど、人はなんで合わせるんだ。合わせるってどうして合わせるんだ、人に合わせるとか、国に合わせるとか、文化に合わせるとか、どうして? 合わせるのか。最後にそこをちょっと考えてもらいたいな。KA さん言って。

KA: 集団行動なんかでひとりだけぼっつんというよりは、安心感があるからということ・・・

T: 孤独を恐れて、人はみんな合わせるんだ。E さん。

E: KA さん言ったみたいに、一人でいるのはちょっとさみしいし、自分だけちょっと違うことしているのは嫌だから、合わせる。

T: NH さん

NH: わたしも、同じで協調性が無い人なら別にいいと思うけど、わたしだったら、ひとりでは生活しづらいと思うし、そういう人が多いんじゃないかなと思います。

T: だから違う文化のところに行っても合わせるんだ。ひとりにならないように。

NH: 大きくうなづく

T: 一人にならないように。そういう風に生きていく・・・

SY が挙手

T: はい、SY くん。

SY: はい、似ている話あるんですけど、サザエさんとかちびまる子ちゃんなんか見ても、ちびまる子ちゃんは必ずたまちゃんと必ず一緒にいるし、カツオは家では必ずびっしとしていた家で、こう・・・はなざわさんとか・・・いろいろ一緒にいるから、必ず・・・家だと思ってるから、誰かと一緒にいたい。

T: 人は一人では生きていけない。

KA: 学校生活でも一緒にトイレに行ったり

T: あ、つれしょんはそういう理由でやっている。

(笑)

T：じゃあ一人でトイレ行く人は勇気ある勇者なんだ。Aさん。

A：はい、えーと何いうのか・・・

T：なぜ人は合わせるのか。

A：ああ。はい。わたしはやっぱり周りの目が気になるし、なんか陰で「あいつ違うよね」とか言われるのが嫌だから、合わせるし、やっぱり一人だと周りに助けてもらわないとできないこともたくさんあるから、自分を助けてくれる周囲を固めていくのが大事だと思うので、周りには合わせてしまうのだと思います。

T：はい。しゃべり足りなかった人。えとー。今日はね、いろんなこれからみんな、これからの社会というのは外国の人が入ってきたり、われわれが外国に行ったり、これが普通に行われる間違いなく、そういう多文化社会です。で、そのときに今日話し合ってもらったように、自分が変わるもの、変わらないものというのが多分出てくるだろうと思います。最後に、これはね、4月からみんなね高校いくよね、高校行っても多文化社会です。ね、外国に行くことが多文化社会じゃないよ、今まであったこともない人、ね、たとえば、金山の人、最上の人、ね、他の地区の人、そういう人たちと出会うのも多文化社会。だからそういう人と出会うときに、自分は、今日レヌカさんがあったようなことを是非ね、考えてほしいと思います。そして、上手に生活してほしいと思います。上手に、自分の良さを捨てないで。はい、終わりました。

後に議論にもなるのだが、Aの感想を最後に終わってよかったのか、もう少し、感想を広げたり、幅広く聞いてみたい。また、何か個人ごと書かせるなどの活動でもよかったのではないか。

#### 研究協議から

- ・与えたネパールの情報はどのくらいだったのだろうか。
- ・生徒のMがポイントだった。なんでもかんでも合わせるという議論の流れからすると、Mの発言は貴重だろう。
- ・議論で後半は、“合わせる”ことが生活をしやすくするという考えであったが、ちょっと違うのではないか。なんでもかんでも合わせるのは日本的な感覚で、むしろ外国では合わせないこともある。合わせない人間についての議論が足りない。
- ・最終のAさんの発言は、多分授業者が狙っている水準の発言だったのだろう。ただ、ここで終わらせるのではなく、Mなどにふってみるのも面白かった。
- ・授業者の後半の発問“どうしてレヌカは変わったのか？”「人はどうして合わせるのか？」という発問は、初めから用意していた発問だったと聞き、やはり、教材研究のすごさはこういうところにあると思った。共同の学びでは、この事前の研究がとても重要になってくる。
- ・自分はこの授業は『国際理解』というよりも『自己理解』だと思った。与える情報が少ない分、日本人が考える国際理解になっている。つまりそれは自分について考えていること。



もし、国際理解をねらっているのなら、もっとネパールという国についての情報をふんだんに与えてから考えるさせることが必要だったろう。

・「レヌカさんはなぜ変わったのか」の発問の後、個人ごと書かせたい。そして個人の考えを持たせた後、グループディスカッションにしていくのも一つ。「しゃべり足りなかった人？」と授業者が問いかけているが、グループに戻せば、しゃべり足りなかった生徒は話さずように思う。

・途中、生徒の発言がよくわからないところがあったが、すぐに授業者が「〇〇ということね」と、生徒が言いたいことを上手に包んでいる。この点がすばらしいし、なかなかできない点でもある。

最後に授業者からは

今年1年、心に留めて授業をしてきたのは、「生徒の発言には必ず何か意味がある」という思いだったということを紹介してもらって、研究協議を閉じた。

本授業の指導案はこちら

● [道徳指導案](#)



[戻る](#)